

福岡空港 PI 第2段階に関して

石田委員長 殿

本日は委員会に出席できないこと、お詫び申し上げます。小生のPI実施報告書に関する感想・意見を若干ではありますが具申させていただきたく存じます。

(I) PI手法について

シンポジウムやオープンハウス、外国人向けのパンフレットも用意されるなど、PI活動を広く市民・関係者に知らしめる努力をされていると認められますし、また情報の提供もある程度のレベルには達しているものと報告書に示されたアンケート結果からは認められます。しかし、説明会への参加者数が伸び悩んでいることに加え、学生や若い人の関心はいかなものか、と若干気になる報告が見受けられます。HPのヒット回数も日当たり70件程度と、HPとしては少ないと思います。情報の多くが街頭での配布冊子になっている点は改善の余地があると思います。また、意見の聴取に関しても郵送が多いというのが気になります。HPからも可能であるはずですが、HPの質問ページがわかりにくいのではないのでしょうか？

今後はより効果的に情報を発信するために、HPの構成の再考、オープンハウスの効果的設置などを検討されることを望みます。

(II) 情報のわかりやすさについて

結果を見ればおおむね達成された結論づけることができます。需要予測という非常に専門性が高いことに対して、市民や関係者の方々にとって知りたい内容がおおむね記されていた、と評価するものが6割を超えているということからも当初の目的はほぼ達成されたといつてよいでしょう。ただし、依然として2割強の方が内容に不満を感じていることは見逃せません。寄せられた自由意見などに記されている「不明確な点」についてより詳細に説明することが必要であると考えます。このとき、詳細に説明すればするほど読み手にも専門的な知識が要求されますので、適宜掲載するパンフレットやHPに注釈を付ける、出前講座・市民講座などを設けるなど、工夫がいるかと思います。

(III) 寄せられた意見について

「アジアの玄関となる」などアジアとの交流が盛んな福岡ならではの意見が見られたことは興味深く、それだけアジア諸国が身近な存在なのでしょう。こういった人々の情報ニーズに答えるために国際線に関して、近接短距離の需要についてより精査され、説明されることが望ましいと思います。

需要推計の提示の仕方ですが、従来よくあった一つだけの予測値を示すのではなく、考え得る最良の状態から最悪の状態まで幅を持った推計値を示されたことは意義深いと思います。特に最悪の状態の需要を気にされている方が多いと思いますので、最悪の状態が実際どういった経済状態を想定したものなのか、「失われた10年」という表現ではなく、(くどいほどに)設定状況を詳細に示された方が今後はよいかと思います。

以上であります。

平成18年12月8日

神戸大学工学部 竹林幹雄